

英米文化学会会報

第73号

平成19年10月15日



ピックアップトラックは、西部では家畜用トレーラーを牽引するのに必須の道具、無税なもの、うなずける。州境を示す看板には、三か所に弾痕がある。アイダホまで来た記念に、無邪気にも銃で撃ったのだろう。荒野ばかりのUS-95号線の風景、ここはメキシコ国境から北へ1000マイル、カナダ国境まであと500マイル。Arizona、California、Nevada、Oregonと来て、最後の州がIdaho。まだ荒野は続く。(撮影：佐野、2006年夏)

目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会 第124回例会のお知らせ
- ◆ 学術担当より 「英米文化」論文締切り迫る
- ◆ 分科会報告 発禁問題研究分科会
- ◆ 財務より 再告・お知らせ
- ◆ 事務局より 会員消息・雑感
- ◆ 賛助会員コーナー

◆英米文化学会第124回例会 (担当：小林弘理事)

下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席下さい。

日時： 平成19年11月10日(土) 午後3時～5時30分

場所： 日本大学歯学部4号館地下セミナー室（ニコライ堂正面）

懇親会場； 日本大学歯学部3号館地下1階「いこい」（会費：2,000円）

懇親会は忘年会を兼ねて行いますので、懇親会のみでの参加も歓迎いたします。

最寄り駅：JR中央線・総武線御茶ノ水、都営地下鉄新宿線小川町

東京メトロ千代田線新御茶ノ水、丸ノ内線御茶ノ水、丸ノ内線淡路町

開会挨拶 〈3:00～3:10〉 英米文化学会会長 小野 昌 (城西大学)

研究発表 〈3:10～5:20〉

1. Rastafarianism から Reggae へ—Marcus Garvey と Bob Marley を繋ぐもの—
(3:10—3:50)

発表 曾雌和英 (茨城大学大学院)
司会 三井敏郎 (相模女子大学)

2. 『シンベリン』における和解と許しの意味—主材源との比較研究—

(3:50—4:30)

発表 蒔田裕美 (清泉女子大学大学院)
司会 山根正弘 (創価大学)

————— 小休止(4:30—4:40) —————

3. ジェイムズ・ジョイスと出版事情

(4:40—5:20)

発表 小田井勝彦 (専修大学)
司会 滝沢 玄 (和光大学)

研究発表抄録

1. Rastafarianism から Reggae へ—Marcus Garvey と Bob Marley を繋ぐもの—

曾雌 和英 (茨城大学大学院)

1920年代民族主義を提唱し万国黒人向上協会 (UNIA) を組織して「アフリカ帰還」を呼びかけ、アメリカにおいて白人からの分離主義を標榜したマーカス・ガーヴェイ (Marcus Garvey) であったが、FBI の策略により結局はそのカリスマ的指導者の立場から失脚させられてしまう。しかし彼の哲学 (Garveyism) は、後にラスタファリアニズム (Rastafarianism) として母国ジャマイカ (Jamaica) において継承される。Rastafarianism はジャマイカ音楽の変遷 (Ska, Rocksteady など) の過程でジャマイカ音楽に取り込まれ、ボブ・マーリー (Bob Marley) の活躍により1970年代から80年代にかけてレゲエ (Reggae) がワールド・ミュージックの地位を確立したことで、この思想は世界的に知れ渡ることになる。共にジャマイカ出身であり、また白人至上主義を非難すると同時に強い民族主義をその哲学とした時代を超えた Garvey と Marley が、なぜ聴衆を魅了したのかを、それぞれの時代背景や Garvey の演説、Marley の歌詞、伝記などを比較することで浮き彫りにする。

2. 『シンベリン』における和解と許しの意味—主材源との比較研究—

蒔田 裕美 (清泉女子大学大学院)

シェイクスピア の『シンベリン』 (Cymbeline) は、和解と許しの成立が主題の一つとされている。主軸となる、女主人公の貞節を賭ける物語展開の主材源は、ボッカチオ の『デカメロン』 (Decameron) 第二日第九話である。この物語は、忍耐と貞節を美德とするグリセルダ型の女主人公が、夫の惨い仕打ちと苦難に耐え忍ぶが、最終的には夫の改心により再び結ばれる過程を描いている。シェイクスピアは、主材源の輪郭に沿って『シンベリン』を創作しているが、特に結末において改変がみられる。本発表では、主材源との比較研究の手法を用いて、結末における和解と許しがどのような意味を持ち、劇にどのような影響を与えたのかを考察する。

3. ジェイムズ・ジョイスと出版事情

小田井 勝彦（専修大学）

ヴィクトリア朝に突如として起こった社会純潔運動は、世紀の転換期にそのピークを迎え、20世紀の新しい価値観を持ったモダニズムの文学に大きな影響を与える。ジェイムズ・ジョイスもその影響を受けたひとりであり、発禁処分という受難を受けた孤高な小説家というイメージを獲得したことによって、英文学史における現在の金字塔的な卓越した地位を築いたと言っても過言ではない。この発表では、ジョイスの代表作 *Dubliners*、*A Portrait of the Artist as a Young Man*、*Ulysses* の出版事情に関して、英米やアイルランドにおける社会純潔運動による歴史的背景などを踏まえた上で、発禁の恐れがあるにもかかわらず敢えて作品の猥褻な描写を削除せずに残したジョイスの芸術論や思想について、また友人に書評や伝記、研究書を書かせることによって、自己の作品を弁護した過程などについて、ジョイスの書簡等の伝記的資料を手がかりにして紹介する。

- * 会場（例会：日本大学歯学部4号館地下）
（懇親会：日本大学歯学部3号館地下）



最寄り駅：JR 中央線・総武線御茶ノ水、都営地下鉄新宿線小川町
東京メトロ千代田線新御茶ノ水、丸の内線御茶ノ水、丸の内線淡路町

◆ 学術担当より「英米文化」論文締め切り迫る（担当：上野和子理事）

当学会の紀要『英米文化』第38号の原稿締め切りは10月末日です。
投稿原稿は、担当者上野和子(〒154-0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21)
までお送りください。投稿規定を次頁に掲載します。

紀要『英米文化』投稿規程(平成 17 年 2 月 2 日改正)

< 投稿規程 >

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集・学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

< 執筆要項 >

1. 長さ・形式 和文論文は 12,000 から 16000 字数の間にまとめる。A4 用紙に 38 字×25 行、フォント 12 で打ち出す。英文論文も、フォントを 12 にし、75 字×25 行で打ち出す。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆署名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字表記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200語程度の英文の Abstract をつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
 - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
 - b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。
5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどいずれかを添付する。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌 5 部と抜き刷り 50 部を進呈する。負担金は一頁につき 2500 円である。ただし、始めの 3 頁は無料とする。

以上

◆分科会報告 <発禁問題研究分科会>

活動状況：9月22日に第3回分科会会合が、佐藤治夫副会長に会場をお世話いただき日本大学歯学部で行われました。第2回（7月14日）に行われた中林正身氏による発表"Lady Chatterley Castrated"に続き、本会合では佐藤副会長による発表「猥雑物出版禁止法（1857）の誕生と抵抗勢力」が行われました。

分科会会員：市川仁、小田井勝彦、門野泉、相良英明、佐藤治夫、須田理恵、中垣恒太郎、中林正身、松原典子、宗形賢二、閑田朋子

◆財務より再告とお知らせ（担当：山根正弘理事）

「再告」 例会・大会受付での年会費受領の中止について

先の7月会報（72号）でお知らせしましたとおり、大会・例会の受付では、懇親会費の徴収のみで年会費の受領は中止いたしました。郵便振替による入金では会員と財務担当相互に公的な授受の記録が残り、納入状況の問い合わせに対し確実に対応できるからです。ご協力頂きますよう再度お願い申し上げます。

「お知らせ」 未納年度分の扱いについて

過去に未納がある場合、未納年度に振り替えて補填するため、実際に入金した年度と年会費台帳上の記録が一致しないことがあります。年会費台帳には入金年月日・入金額・年度・入金方法（郵便振替通知票の続き番号）など漏れなく記載し、郵便振替通知票をすべて保管しております。が、会員の皆様方も郵便振替受領証は領収証に代わるものですので、各自保管して下さい。

納入状況の問い合わせ：山根（MasahiroYamane@SES-online.jp）

年会費：5,000円

口座番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

◆事務局より（担当：大東俊一理事）

<会員消息>

省略

<事務局雑感>

昨年度から学内の自己点検・評価やFD、また、認証評価機構による第三者評価の仕事にかかわるようになって感じているのは、大学の置かれている経営環境がますます厳しさを増しているということです。私立大学は言うまでもなく、独立法人と化した旧国立・公立大学も例外ではありません。そのような状況において、教員個人もまた厳しい評価の目にさらされています。研究・教育業績の審査や、授業改善をはじめとするFDの嵐(?)は止むことはなさそうです。ちなみに、大学(院)設置基準においては、大学院のFDは今年度より、学部

のFDは平成20年度より義務化されることになりました。大学が置かれているこのような競争的環境において、学会の果たすべき役割は、まず学問研究の水準の向上に寄与することではありますが、それと同時に、会員である研究者に対するさまざまな支援を行うことも重要な課題です。本学会は日本学術会議協力学術研究団体ですので、紀要の刊行や研究発表の支援を通して、会員各位の業績作成のよきお手伝いができると思います。

大学や学部・学科の新設・増設の際の文部科学省における教員資格審査はもとより、新任教員の採用に当たっても、本学会のような日本学術会議協力学術研究団体の刊行する紀要に掲載された論文は、レフェリーのない大学紀要に掲載される論文よりも高い評価を受けまし、大会・例会での研究発表についても同様です。

会員各位におかれましては、今後、紀要への論文投稿、大会・例会での研究発表を積極的に行って頂ければ幸いです。

◆賛助会員コーナー

ロングマン英和辞典



★「同時代の口語表現を正しく理解したこのロングマン英和辞典は、今日の英語の宇宙を正確に映し出す鏡なのである」(本書まえがきから) 東京大学教授・翻訳家 柴田元幸



★英米文化学会編著の

「Enduring Voices」
「Words To Remember」



好評発売中!
桐原書店

<http://www.kirihara.co.jp>
電話:03-3314-8181

金星堂は英米文化学会の賛助会員です。

英語テキストをお探しの際には是非ご連絡ください。

ホームページも今秋から徐々に改革し、先生方へのサービスを充実させます。ご期待ください。

K★金星堂

東京都千代田区神田神保町3-21 (〒101-0051)
電話 03(3263)3828 FAX 03(3263)0716
E-mail text@kinsei-do.co.jp
URL <http://www.kinsei-do.co.jp>

鷹書房弓プレス<新刊案内>
津久井良充・市川 薫編著

<私>の境界

20世紀イギリス小説にみる主体の所在 A5判上製 392p 本体3500円

渡辺和幸著

イングランドの街路名

街路名から学ぶ伝統文化の創造性
A5判上製 256p 本体3000円

村松俊子著

奇想の詩学

シェイクスピア『ソネット集』論
A5判並製 240p 本体2500円

〒162-0811 新宿区水道町3-12
尾苗ビル2F
Tel. 03-5261-8470
Fax.03-5261-8474

英米文化学会会報 第73号

編集/発行: 英米文化学会 編集責任者: 佐野潤一郎

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内

Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp

年会費等振込先: 郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>